

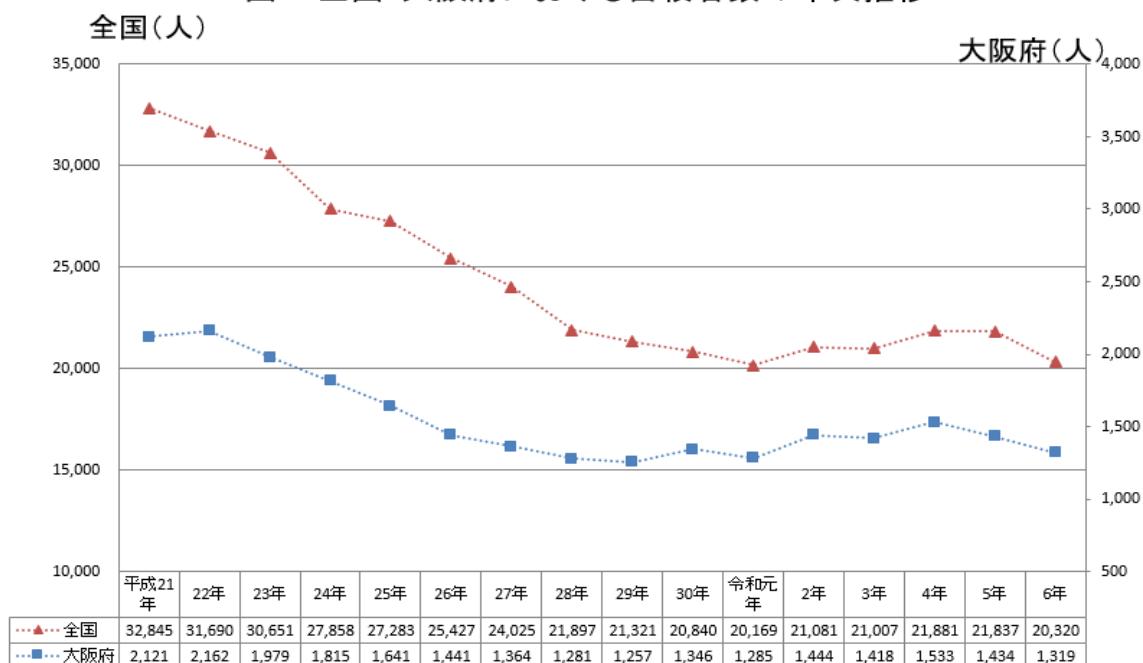
令和6年中における高槻市の自殺の状況（警察庁自殺統計）

1 自殺者数の年次推移

1) 全国と大阪府

全国の自殺者数は、平成 22 年から令和元年までは減少傾向でしたが、令和 2 年に 11 年ぶりに前年に比べ増加しました。令和 6 年は全国、大阪府ともに前年より減少しています。

図1 全国・大阪府における自殺者数の年次推移

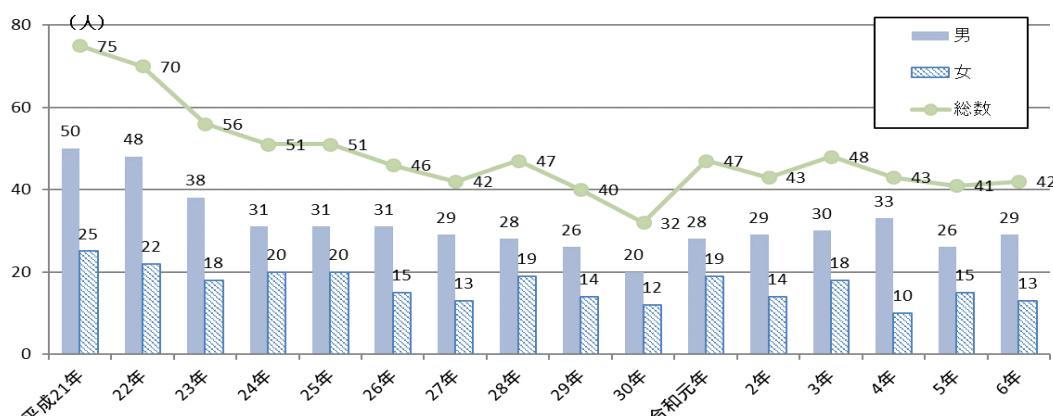


出典：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」（発見日・住居地）

2) 高槻市

高槻市の自殺者数は、平成 21 年以降、減少傾向にありました。令和元年に増加して以降は横ばいの状況が続いている。令和 6 年は 42 人となっています。

図2 高槻市の自殺者数の推移



出典：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」（発見日・住居地）

2 高槻市における自殺者の状況（令和6年）

1) 警察庁自殺統計について

- ・対象：総人口（日本における外国人を含む）
- ・調査時点：発見地を元に死体発見時点で計上
- ・訂正報告：捜査等により自殺であると判明した時点で、自殺統計原票を作成し計上
- ・原因・動機別：遺書等の生前の言動を裏付ける資料がある場合に加え、家族等の証言から考えうる場合も含め、自殺者一人につき4つまで計上可能

2) 集計結果（厚生労働省：「地域における自殺の基礎資料」発見日・住居地を基準として作成）

①年齢

年齢別自殺者の割合は、「50代」が最も多く、次いで「40代」「80歳以上」となっています。令和6年は「20歳未満」「20代」「40代」「50代」の自殺者数が前年より増加しています。

図3 年齢別自殺者の割合(%)

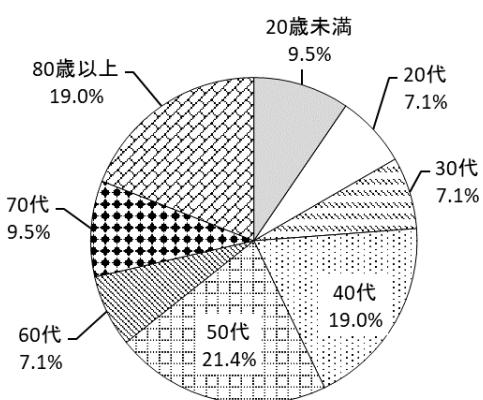
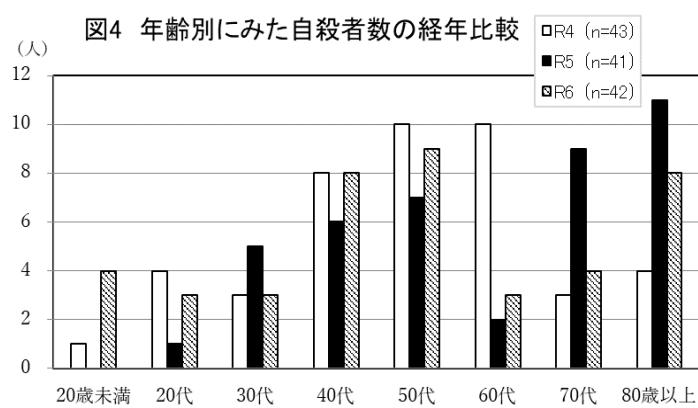


図4 年齢別にみた自殺者数の経年比較

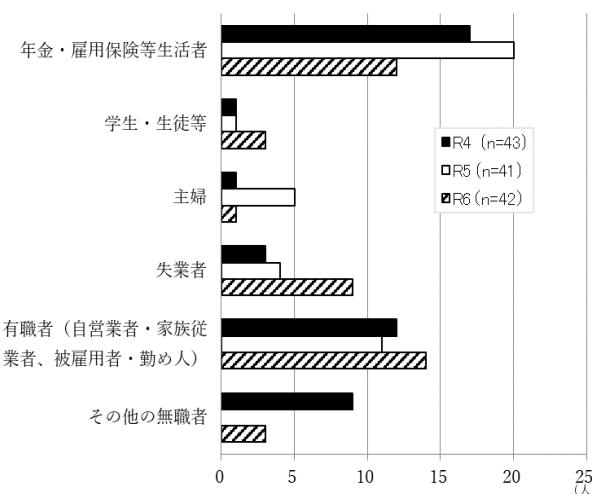
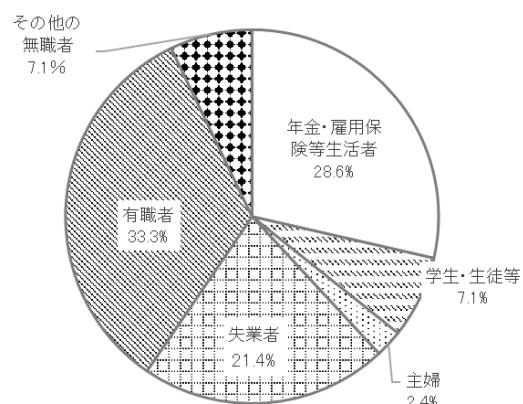


②職業

令和6年の職業別自殺者の割合では、「有職者」が最も多く、次いで「年金・雇用保険等生活者」となっています。

図6 職業別にみた自殺者数の経年比較

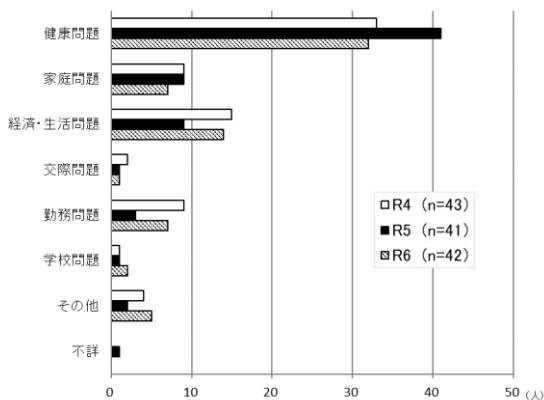
図5 職業別自殺者の割合(%)



③原因動機（複数回答）

令和6年の原因動機別自殺者数では、「健康問題」が最も多くなっており、次いで「経済・生活問題」の順となっています。

図7 原因動機別自殺者数・経年比較(複数回答)



④手段

令和6年の手段別自殺者の割合では、「首つり」が最も多く、次いで「飛込み」となっています。

図8 手段別自殺者の割合 (%)

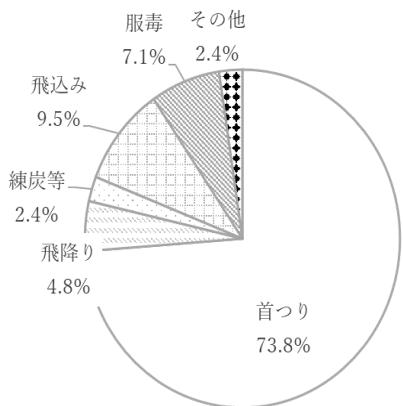
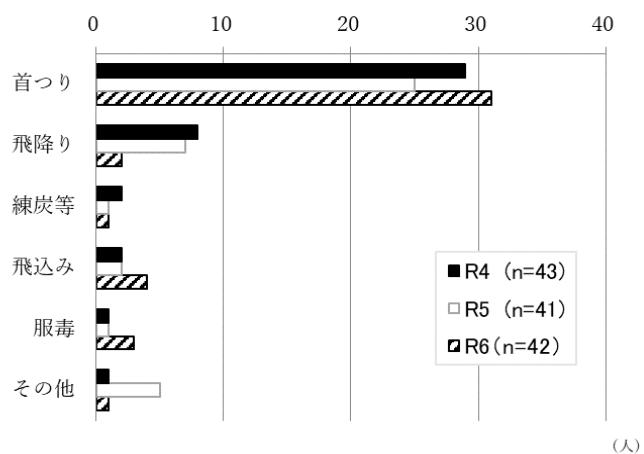


図9 手段別にみた自殺者数の経年比較



⑤場所

令和6年の場所別自殺者の割合では、「自宅等」が最も多くなっており、経年でみても同様です。

図10 場所別自殺者の割合 (%)

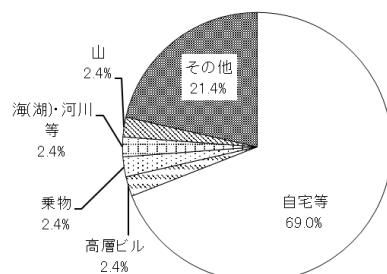
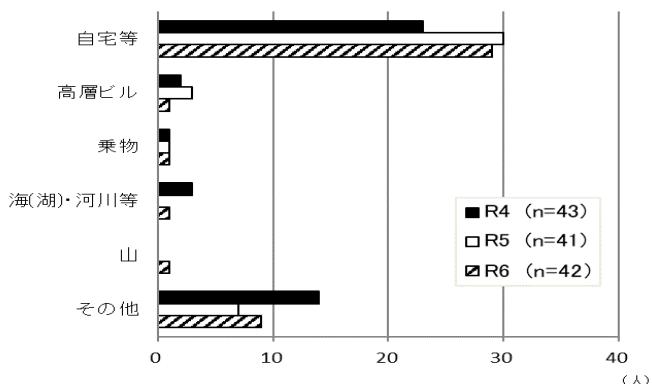


図11場所別にみた自殺者数の経年比較



⑥自殺未遂歴

自殺未遂歴の有無では、令和6年は「あり」が7.1%となっています。

図12 自殺未遂歴の有無の割合(%)

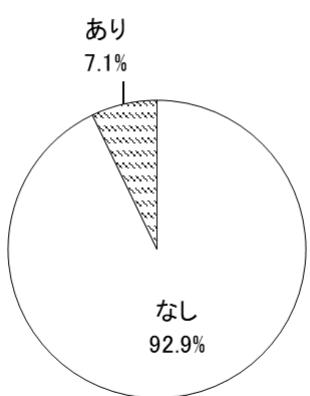


図13 自殺未遂歴の有無の経年比較

